

## 北アルプス 岳沢コブ尾根

小暮

【日時】 2015年4月18日(土)~19日(日)

【メンバー】L小暮、笹川

GWの岳沢には2度ほど訪れたが、コブ尾根だけ登っておらず宿題となっていた。コブ尾根は、岳沢小屋ベースで登られることが多いようだが、今回、全装を背負って雪洞泊の1泊2日で行く計画をたてた。ちょうどこの週末からは、バスが上高地まで入る。3本目のバスに乗って、7時過ぎには上高地へ着いた。まだ、本格的な観光シーズン前で静かな河童橋を渡り、景色を楽しみながら岳沢小屋を目指す。樹林帯を抜け、岳沢に入るとデブリの山がすごい。先週の雨で一気に雪崩たようだ。周囲の景色がやはり素晴らしく、ゆっくりと眺めながら登っていく。岳沢小屋は近そうで遠く、なかなか時間がかかった。小屋は屋根のあたりまで雪に埋まっていたが、岳沢小屋のブログによれば、小屋周辺は例年と同程度の積雪量らしい。

コブ尾根は小屋の裏側から続いているが、藪っぼいので、トポの通り急斜面のコブ沢をしばらく登ってから取り付く。この週末は他パーティもなく、真っ白な斜面にトレースを刻んでゆくのが楽しいが、ラッセルなので大変でもある。日差しで緩んできた雪がダンゴになって滑りやすいので、一步一步ステップを切るように慎重に登っていく。急斜面をひたすら2時間強登ると、コブ尾根のスノーリッジの片斜面に乗ることが出来た。雪の斜面をトラバースしていき、発達した雪庇に近づかないように注意しながら登る。背後には明神岳が立派で素晴らしい景観だ。

マイナーピークは、比較的広めのピークだ。この先、稜線は急な崖になっていて、懸垂が必要だが、何も支点になるものがない。どうやら土嚢袋を使うか、スノーボードを作るしかないようだ。最近無かった展開で、少々焦る。スコップを取り出して、雪の表面のサラサラ雪を50cmほど取り除くと、その下にはザラメ雪が出てきたので、スノーボードで懸垂できそうだ。大き目に作ったスノーボードはしっかりしていて大丈夫そうだ。懸垂10mほどで



コブ沢を登る



コブ尾根からの明神岳

スノーリッジへ降り立つ。その先はちょっとした雪の斜面を登っていき、コブ岩の基部まで進んで、雪洞を作ることにする。傾斜が強いのでそのまま幕場を作ると危ないので、岩と雪の間隙のところにトマハウスを作ってみることにする。スノーブロックを切り出そうとするが、雪の表面はサラサラ雪で、表面30cm下には先日の雨でガチガチになった氷板で、スノーソーを使ってもブロックを切るのは大変すぎた。標高が高いせいかサラサラ雪のブロックは焼結する力が弱くて、ブロックが崩れてしまいうまくいかない。結局、トマハウスは諦めて、ガチガチの氷を時間をかけて削って雪洞を制作した。3時間も掛かってしまった。今回は軽量化でテントは持ってこなかったの、軽いのは良いがかなり面倒であった。

翌朝は、5時40分出発。すぐにコブ岩に取付く。コブ岩の登攀ルートはいくつかあるらしく、どこから取り付くか悩むが、顕著な右手の尾根から簡単そうな中央部のルンゼ状の草付帯へと取付く。小暮リードでロープを出す。左側に行くと行き詰りそうな感じがしたので、結局右側の岩場へと登っていく。IV+くらいの結構難しいラインになってしまった。残置ハーケンはそれなりにあるので助かった。30mほど登ったところで核心部を抜けたようなので、ピッチを切った。

2ピッチ目は、Ⅲ級程度の岩場だ。笹川リードで約40m。こちらも残置ハーケンが使える。この2ピッチでコブ岩の上に出たようだ。

その先は細いスノーリッジになっているので、つるべで小暮がリードしてスノーバーを支点に進む。易いのでどんどん進む。Ⅱ峰のピークからは、約20mの懸垂下降となる。ここには懸垂用の残置スリングがある。懸垂した先がナイフリ

ッジになっているので注意してやり過ごし、ここでロープはしまつて慎重に登っていく。ちょっとした雪の斜面をしばらく登るとコブ尾根の頭に着いた。まだ10時前なので、しばし休憩したのち、ジャンダルムを登ろうかと歩き始めると、すぐに雨が降ってきて視界も無くなってしまったのでジャンダルムは諦めて、下降に入る。

あとは天狗沢を降りるだけと楽勝気分だったが、視界は20mほどとなり、ルートがわかりづらい。一回、飛驒側の枝尾根に入って



コブ岩 2ピッチ目



Ⅱ峰からの懸垂下降 20 m

しま  
い  
戻  
る。  
既  
に  
雨

はかなり激しくなってきた風もあり、ゆっくりしてられない。少し下っていくと、正面には岩



のリッジの科尔のようなところだ。ここから左側に降りれば良いだけだろうと、ロープを2ピッチほど使って下降する。その先でロープをしまいとどンドン下っていくと、滝に突き当たってしまった。どうもおかしいとコンパスを見ると、なぜか北に向かっている。どうやら飛驒側に降りてしまったらしい。こんなことって、やっぱりあるのかと、愕然とする。既に500m以上下降しており、時間は12時過ぎだ。

登り返すしかないので、トレースを辿って急斜面を登ること2時間。14時に稜線に戻った。稜線は風雨が強くて、ゆっくり周囲を見る余裕が無いが、ルートを探すしかない。ここから、歩いてきたところを戻ったり進んだりするが、どうも現在位置が判然としない。ペンキマークもあるので、ルートは外していないようだが、どうしても天狗沢の科尔へ向かうルートが発見できず、右往左往してしまう。結局、壘岩尾根と思しきところを下り、天狗沢へルートを探しながら下ることになった。

最初は右側にトラバースして行き過ぎてしまい崖になっているので、戻って左側へ向かうと、なんとか雪が繋がっていて下降していくことが出来た。こんなに登ったかなと思うような距離を下っていくと、ようやく天狗沢に合流した。沢はデブリもあるし、雨で雪はぐずぐずで雪崩の恐れもあるので、休憩せずにそのまま安全地帯を目指して歩き続ける。グサグサの雪にヨレヨレの足を取られて転んで、膝を少しひねってしまった。岳沢に降りると視界はかなり効くようになる。

既に時刻は、16時50分。バスの最終には間に合いそうにない。疲れ切って一休み。あとはトレースを辿って上高地へ。すっかり全身びしょ濡れ、靴の中は水たまり状態だ。日が暮れる前にはついたが、最終の18時のバスには15分ほど間に合わず。今思えばもっと頑張ればよかった。下山連絡を入れた後、タクシー事務所に行くと、この時期、この天候なので全てのタクシーは松本へ帰ってしまっているという。粘って、連絡をしてもらうものの、手配できず。結局、大休止したのち、釜トンネル抜けて中の湯まで1時間の歩き。そこから、沢渡岩見平まで10km以上空荷で走って車を取りに行くことに...21時過ぎに車回収。すっかり疲れ切った山でした。視界さえあればなんということも無かったでしょうが、かなり大変な山行でした。

#### 【行程】

4/18 上高地(7:15)～岳沢登山道(8:05)～岳沢小屋(10:35/50)～マイナーピーク  
(13:20/40)～コブ岩基部c.1(14:50)

4/19 c.1(5:40)～II峰(8:00)～コブ尾根ノ頭(9:40/10:20)～科尔より下降(10:  
40)～登り返し(12:05)～科尔(14:00)～岳沢(16:50/17:10)～上高地(18:15)

【地図】穂高岳